

西小だより

よく考え 仲間とともに やりぬく子

甲子園球児の姿から学び伝えたいこと

校長 水野 聡

今年の夏休みの大きな話題のひとつに、全国高等学校野球選手権大会でベスト4まで勝ち進んだ岐阜県立岐阜商業高等学校の躍進が挙げられます。野球界だけでなく、日本中の人々に感動を与えました。「窮地に追い込まれても、最終的な結果が出るまで絶対にあきらめない姿」「絶対に厳しい状況になっても、全員が笑顔で試合を楽しむ姿」「審判の判定に疑問を感じても、表情や態度で表すことなく気持ちを切り替えて試合に臨む姿」「身体（左手）にハンディキャップがありながらも、不屈の精神と努力で素晴らしい成績を収めた横山温大選手の姿」等々、どこを挙げても子どもたちに‘伝えたいこと’がたくさんあります。また、選手たちが最後まで笑顔で試合に臨む姿が印象的であった分、敗戦後、歯を食いしばりながら耐えて涙を流す選手を見て、本当は苦しかったんだなと分かったら、思わず涙せずにはいられませんでした。きっとこの気持ちは保護者の皆さんをはじめ、子どもに関わる多くの人々も同じではないでしょうか。「あきらめない心」「常に前向き」「ひたむきに努力」「精一杯に取り組む」と言葉で表すことは簡単ですが、その言葉の向こう側にある思いや姿勢こそが本当に伝えていきたいところです。子どもたちには勉強、運動、活動等でその都度、その場面で語っていきたいと思います。

さて、高校野球の試合終了後、両校が整列、礼の後に互いに握手や抱擁をする場面があります。これはもともとルールとしては、整列、礼をすることで試合終了の合図であったものの、握手等は決められていないそうです。ただし、互いの健闘をたたえ、自然発生的な行為として制限していないそうです。

10月11日（土）川辺西小学校運動会があります。9月からは本格的な取り組みが始まり、運動会では赤白の両組ともに熱戦となります。開会式では、戦いの前に互いの健闘をたたえ、固く握手をする場があります。きっと競技の最中でも自然発生的に互いをたたえ合う姿が見られる等、見どころ満載となることは間違いありません。ぜひ子どもたちの活躍を見にきてください。

西小のシンボル‘梅檀の木’

校庭の南端にあった梅檀の木を8月21日（木）に伐採しました。少なくとも50年以上前から西小の子どもたちを見守ってきた大木がなくなったことは、とても残念ですが、その大きな切株が素敵なベンチになりました。これからは子どもたちの憩いの場となりそうです。

